

松任城略年表

一四六七 応仁の乱

一四八八 加賀一向一揆の成立
(守護富樫正親白書)

一五三一 享祿の錯乱(一揆内部の対立)

一五四六 金沢御坊設置

一五五五 弘治の乱(朝倉対一揆)

一五六八 織田信長 入京

一五七五 鍋木頼信の館(松任城)を
山内衆が攻める(一揆内部の対立)

一五七七 上杉謙信 松任城を攻める

一五八〇 柴田勝家 加賀平定、松任城落城

一五八三 前田利長 松任城入城
(松任四万石)

一五八七 丹羽長重 松任城入城

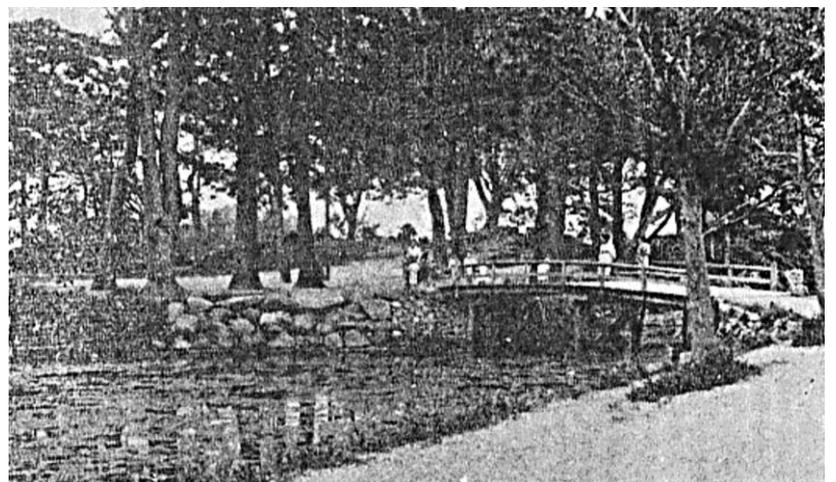
一六一五 一国一城令により廃城か



現在の松任城址公園(本丸部分のみ)



現在の松任城址公園

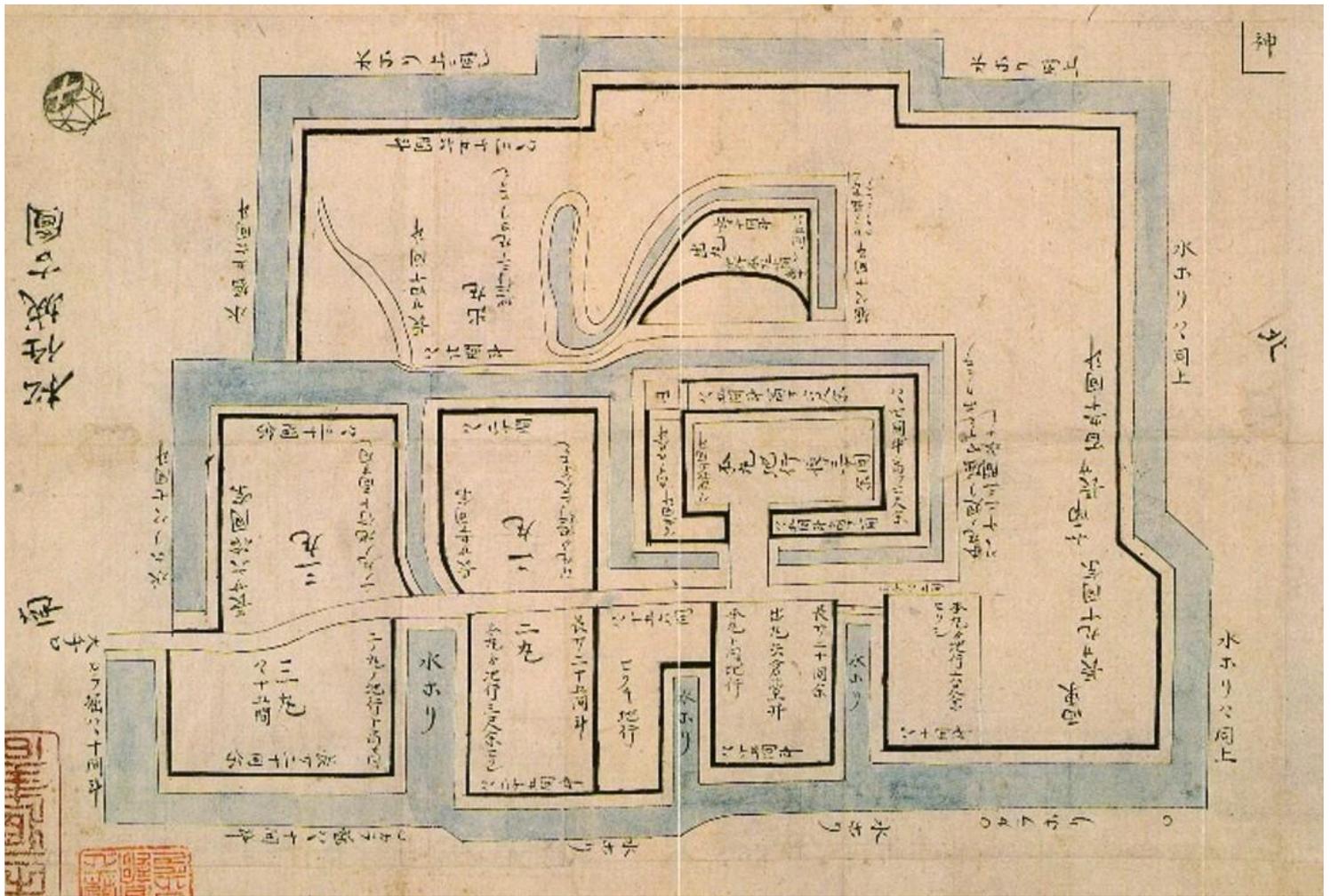


大正5年頃の松任城本丸を守る内堀(本丸への入口部分)



現在の松任城址公園(本丸への入口部分)

明治23年に埋まりかけていた内堀が掘り返されたものの、昭和9年頃から再び内堀が埋められ始め、現在は完全に埋められてしまい、道路と公園になっている。



廃城の60年後(1670)頃には書き写された松任城古図



「新松任町史」掲載の松任城堀推定図

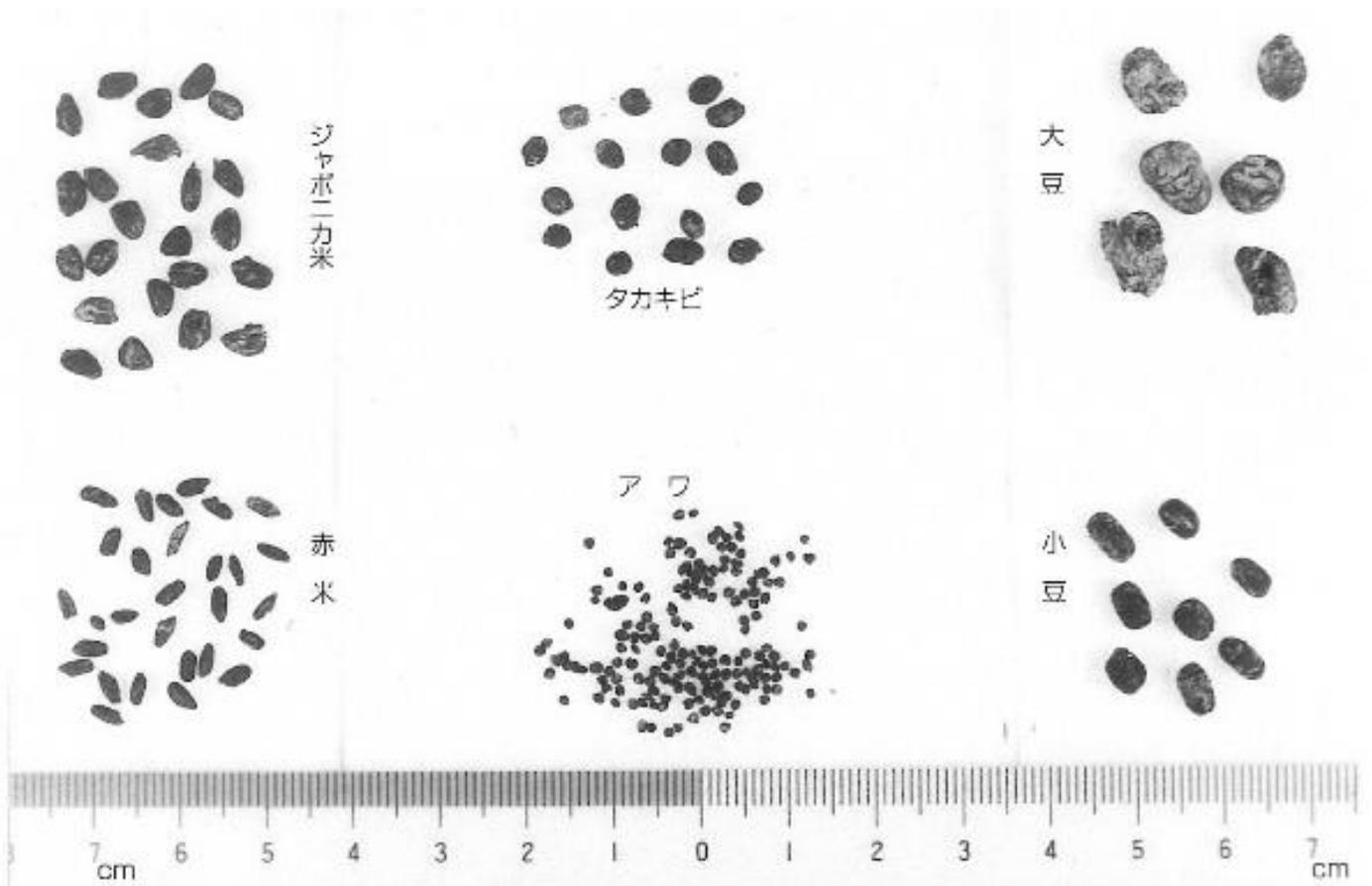


【上】松任城周辺(エイム)から出土した小札(こざね)
 小札とは、穴の開いた鉄板で、穴に革紐、絹の組紐を通して、革製の小札と混ぜながらつなぎ合わせ、胴丸や腹巻と呼ばれる鎧に使用された。南北朝から室町前期に多い一般的な普及品である。

【下】松任城周辺(エイム)から出土した小柄(こづか)
 小柄とは、刀剣に付属する小刀である。



松任城周辺(エイム)から出土した瀬戸天目 鉄釉茶碗
 16世紀中頃の製品で全体に被熱している。
 他に天目茶碗 5 点以上、石製風炉も出土しており、喫茶の風習があったことがわかる。



松任城周辺(エイム)から出土した炭化した穀類

2.5kg の炭化した穀類を詳細に分析した結果、米 97%、粟 1%、小豆 0.7%、大豆 0.4%、きび 0.3%、赤米 0.3% の重量割合であったことがわかった。明治 5 年の松任の穀物生産に占める米の割合は 90%、大豆 4%、小豆 1%、そば 2%、大麦 2%、粟・キビ 0.5% であることから、出土した炭化米は、兵糧米であった可能性が高い。

※当時の農民は、あまり米を食べることができなかったと言われている。